

■ シラバス登録 プレビュー

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成30 年度

講義科目名称 : ワークショップ論

授業コード : 54019

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期: 金曜4限			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
村尾 敏彦、中村 英一朗			

授業テーマ	「ワークショップ」を体を動かすことや、グループワークに参加することを通して基本から学ぶ
講義概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれません。そのような中でこのワークショップ論では①体験する（参加者は相互に学び合う）、②振り返る（自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する）、③一般化する（体験を分析し概念化する）、④応用する（それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える）を通して、人間の成長につなげます。
到達目標	実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学ぶことができる。学びを通して、自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる。
評価方法・フィードバックの方法	振り返りシートへの記入等平常点（20%）と第1~4回の授業でのレポート作成（80%） フィードバックの方法 ・質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明する。 ・必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。 ・レポートについては、15回目の授業で、説明・評価し返却する。
評価基準	体験の振り返りにおいて、言語化し、一般化し、体験の意味するところを理解することができる。（可） 非日常の体験から、日常の自分と現実の社会・世界との関係を見つめ直し、できることから自分を変容していくことができる。（秀）
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・毎時講義の中で、感じたこと考えたことを「振り返りシート」に自分の言葉で丁寧に記載すること。 ・教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。履修者数が定員を超えると、抽選を行なう場合があります。
準備学習<予習・復習の時間・内容>	本科目の2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要です。 30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習を自宅に取り組むこと 予習 ・内容に関わる情報収集をする 復習 ・心に残った事柄について、事後にインターネット等を利用して調べる
オフィスアワー等	授業中、授業終了後、あるいは、村尾については月曜4時限目に個人研究室（1-234）で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	過去の受講生は、この授業で友人をつくることが多かったようです。生き方についてグループで話し合うワークがはいっているためでしょうか。

授業計画				
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標
第1回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	ワークショップとは？（7つの側面・話し合ラルール作り・聞くトレーニング）	授業の目的と全体像を理解する ワークショップとは何かを説明できるようになる
第2回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ワークショップの基本（ブレーンストーミング・CARRトレーニング他）	ワークショップの基本を具体的な事例をもとに学び、使うことができる。
第3回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ダイヤモンドランディング（仕事に求めるもの）	「仕事に求めるもの」について、ダイヤモンドランディングの手法を用いて考え、自分なりの意見・感想を述べることができる。
第4回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	トラストゲーム（他者を感じて）	他者の身体と共有された空間を感じ取れるようになる
第5回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	レスポンスゲーム（ひとからひとへ波のように伝わって…）	他者の身体からの表現に答えて、身体で表現できる
第6回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える①『宇宙人に自己紹介』『ちがいのちがい』より	『宇宙人に自己紹介』『ちがいのちがい』のワークより、『違いを豊かさに』を実感を持って理解することができる。
第7回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える②『熱気球』より～結婚の条件～	『熱気球』の手法を使い、「結婚の条件」をグループワークを通して考え、自分なりの意見・感想を述べることができる。

第8回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える③ 多数派少数派・青い目茶色い目 [DVD]	被差別の感覚を簡単なゲームを通して体験しつつ「青い目茶色い目」のDVDを視聴し、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第9回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	イメージを共有して（大縄跳び）	グループでイメージを共有して表現できる		
第10回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	Back to Back(絵を描くワーク)	言葉によるコミュニケーションの可能性と不可能性について語れる		
第11回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	粘土のワーク	「自己」について形象化できる 「自己」について考えることができる		
第12回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム① 南北問題を体験を通して考える	ゲームを通して世界の状況や日本の立ち位置を実体験として学び、その時に浮かんだ感覚や感情、思いを振り返ることで、世界の抱える南北問題について考えることができる。		
第13回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム② フォトランゲージ	前時の振り返りを丁寧に行い、「世界の家族」からフォトランゲージの手法でとらえ直し、『豊かさとは何か』について、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第14回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	マインドマップでここまでまとめとレポート作成	体験を言語化できるようになる。 雑多な情報の整理の仕方を学ぶ。 自分が大切にしていることに気づく。		
第15回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	レポートの振り返りとオーフラッシュ（卒業までにつけたい力）	自身の大学生活についてビジョンをもてる。 オーフラッシュの手法を使い「卒業までにつけたい力」をゲーム性を帯びながらも、各人や全体の動向が何であるかを知ることができる。また、そこから、自分なりの意見・感想を述べることができる。		

授業方法

	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	演習	教室	2	視聴覚教材を活用する	90分×15

閉じる